

※ 欧州委員会の周波数政策へ助言する諮問機関。

- 12月13日（水）午前にRSPG※が総務省へ来訪。
- 5G、緊急サービスネットワーク(ESN)等について意見交換を実施。

- 日時等 12月13日（水）10:00～11:00 於：総務省
- 参加者 RSPG Philip Marnick 議長（兼 イギリスOfcom 周波数部長）
Jonas Wessel 副議長（兼 スウェーデンPTS 周波数部長）
Gilles Brégant 副議長（兼 フランスANFR CEO）
Chris Woolfordラポーター（兼 イギリスOfcom 国際周波数課長）



総務省 竹内電波部長、杉野移動通信課長、中里新世代移動通信システム推進室長 等

(1) 5G

26, 28GHz帯の周波数割当て時期、衛星との共用検討、事業者への割当て方法等について意見交換

- ・ **26GHz帯の利用方法が必ずしも明確になっていない**ため、スポット的な第三事業者への割当てや工場内での自営的なシステム構築を含め、**様々な割当て方法を模索中**。
- ・ 3.4-3.8GHz帯については3.4-3.5GHz帯、3.6-3.8GHz帯等に分割され、**WRC-19を待つことなく、国ごとに割当てられる見込み**。今後、推進周波数帯の既存業務との共用可能性等について答申予定。

(2) ESNの導入状況・導入期限

日本より欧州の公共安全LTEの導入状況・期限について質問

欧州では、次のとおり各国で個別に取り組み中。

英国：EEと契約しており、民間ネットワークから公共用へ移行予定。災害時等には、サービスごとに利用を制限。

仏国：セキュリティの観点から公共ネットワークは民間用とは別システムとして構築。周波数は400、700MHz帯。空港や原子力等向けの高セキュリティ用LTEネットワークを2020年から2025年までに導入予定。